



## 平成27年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年4月27日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 不二家

コード番号 2211 URL <http://www.fujiya-peko.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 櫻井 康文

問合せ先責任者 (役職名) 常務執行役員 総務人事本部長 (氏名) 中島 清隆

TEL 03-5978-8128

四半期報告書提出予定日 平成27年5月11日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成27年12月期第1四半期の連結業績(平成27年1月1日～平成27年3月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年12月期第1四半期	26,352	5.8	305	△33.7	362	△42.5	28	△91.7
26年12月期第1四半期	24,912	5.4	461	6.5	631	10.7	339	△4.5

(注) 包括利益 27年12月期第1四半期 254百万円 (94.1%) 26年12月期第1四半期 131百万円 (△83.6%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年12月期第1四半期	0.11	—
26年12月期第1四半期	1.32	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年12月期第1四半期	58,675	29,960	48.9
26年12月期	62,242	29,158	45.0

(参考) 自己資本 27年12月期第1四半期 28,686百万円 26年12月期 27,998百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
27年12月期	—	—	—	—	—
27年12月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成27年12月期の連結業績予想(平成27年1月1日～平成27年12月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	50,000	3.4	100	—	50	—	△350	—	△1.36
通期	106,000	1.8	1,900	114.1	2,100	79.7	1,000	—	3.88

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(注)詳細は、添付資料5ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(3)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	27年12月期1Q	257,846,590 株	26年12月期	257,846,590 株
② 期末自己株式数	27年12月期1Q	83,248 株	26年12月期	83,093 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	27年12月期1Q	257,763,485 株	26年12月期1Q	257,763,783 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P4「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 .....	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	5
3. 四半期連結財務諸表 .....	6
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	10
(継続企業の前提に関する注記) .....	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	10
(セグメント情報等) .....	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間(平成27年1月1日～3月31日)のわが国の経済は、企業収益に改善が見られ、雇用・所得環境も改善傾向が続くなど、緩やかな回復基調が続いております。しかしながら、個人消費の動きには勢いがなく、海外景気の下振れ懸念などもあり、景気の先行き不透明感が払拭できない状況で推移いたしました。

当社グループが属する食品業界におきましては、消費者の根強い節約志向が続く中で、円安による輸入原料価格の上昇もあり、引き続き経営環境は厳しいものとなりました。

このような環境の中で当社は、事業の基盤となる食品安全衛生管理体制の強化に取り組むとともに、洋菓子事業におきましては、既存の洋菓子チェーン店の活性化という課題に重点を置き、品揃えの充実などによる売上の回復と事業の効率化につとめました。製菓事業におきましては、主力ブランドの売上上位アイテムに集中して拡販する販売戦略の下、商品力アップと適確なマーケティング活動を通して売上の確保に取り組み、また販売費の抑制にもつとめました。一方で、円安や需給の変化によるチョコレート原料やアーモンドをはじめとした原料価格高騰に対応して、減量などの規格改定を前期に続き実施し、収益の確保にも取り組みました。

そのような中で、当第1四半期連結累計期間の売上高は、263億52百万円(対前年同期比105.8%)となりました。

損益面では、中国事業の収益拡大がありましたものの、原料価格高騰の影響を強く受ける中で、国内菓子事業の減収や洋菓子・レストラン事業での既存店売上の回復の遅れもあり、営業利益は3億5百万円(対前年同期比66.3%)、経常利益は持分法適用関連会社の業績低下もあり3億62百万円(対前年同期比57.5%)、四半期純利益は28百万円(対前年同期比8.3%)となりました。

当社グループのセグメントの概況は次のとおりであります。

		当第1四半期連結累計期間		前第1四半期連結累計期間		対前年同期比	増減
		平成27年1月1日から平成27年3月31日まで		平成26年1月1日から平成26年3月31日まで			
		売上高	構成比	売上高	構成比		
洋菓子事業	洋菓子	百万円 7,911	% 30.0	百万円 6,291	% 25.2	% 125.8	百万円 1,620
	レストラン	1,687	6.4	1,789	7.2	94.3	△101
	計	9,598	36.4	8,080	32.4	118.8	1,518
製菓事業	菓子	15,220	57.8	15,169	60.9	100.3	50
	飲料	1,146	4.3	1,257	5.1	91.2	△111
	計	16,366	62.1	16,426	66.0	99.6	△60
その他		386	1.5	405	1.6	95.3	△19
合計		26,352	100.0	24,912	100.0	105.8	1,439

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

<洋菓子事業>

当社単体の洋菓子におきましては、競争力のある「マカロン」シリーズに新フレーバーを毎月投入するなど、新規顧客を獲得し既存店売上の回復にも繋げるべく努力してまいりました。また、各種キャンペーンや「ポイント5倍デー」の実施など、お客様の購買意欲を喚起する販売促進策を推進するとともに、(株)サンリオの人気キャラクターを使った新製品「ぐでたまロール」などを発売いたしました。さらに、(株)スイートガーデンの焼菓子も活用したギフト商品の充実にも注力するなど、品揃えの強化にも取り組みました。

店舗開発につきましては、引き続き集客力のあるショッピングセンター内への出店や、立地にあわせてイートイン機能などを充実させた郊外型店舗の開発を進めました。当第1四半期連結会計期間末店舗数は、前連結会計年度末に比べ4店増加し、986店舗となりました。

前年4月に子会社化した(株)スイートガーデンにつきましては、自社チェーン店への販売以外に、不二家店舗や山崎製パンルートでの販売、さらにはグループ外への販売にも取り組むなど、経営基盤の確立に向けた事業経営を進めております。

高級フランス菓子を製造、販売しているダロワイヨにつきましては、2月に開店した「アトレ目黒店」の売上が寄与する中で、前期のヒット商品「あまおうのマカロン」に続き「あまおうのショコラキス」が好評を得て売상을伸ばすなど、前年3月の消費増税前の駆け込み需要の反動がありましたものの、前年同期の実績を確保することができました。

この結果、ケーキ等の洋菓子類の売上高は、(株)スイートガーデンの連結寄与もあり、79億11百万円(対前年同期比125.8%)となりました。

家族団欒の場としてご利用いただいているレストランにつきましては、前期から苦戦が続く既存店の売上回復につとめ、3月には主力メニューの刷新を行い、2種類の料理を選べる「2つのおかず定食」「2つの洋食」などが好評を得ることができました。また、新規の出店では、2月に「戸塚モディ店」、3月に「川崎モアーズ店」を開店しました。しかしながら、レストランの売上高は、16億87百万円(対前年同期比94.3%)と厳しい実績となりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間における洋菓子事業全体の売上高は、95億98百万円(対前年同期比118.8%)となりました。

#### <製菓事業>

当社単体の菓子におきましては、主力ブランドである「カントリーマアム」について、テレビCMと消費者キャンペーンを実施し、前期好調でありました16枚入り主力アイテムの再活性化に取り組みました。また、新製品「(7個入り)カントリーマアムまるごと果実」シリーズの発売や、春の定番メニューとなった“抹茶”をテーマに「大茶会」シリーズとして「ルック」「ミルキー」「カントリーマアム」の新製品を発売するなど、消費者ニーズに対応した施策を推進しました。一方では、徳用大袋製品を中心に減量などの規格改定を実施したことや、販売促進費の抑制をはかったこともあり、これら製品の売上確保に苦戦いたしました。なお、本年4月には「カントリーマアム」製造ラインへの設備投資を行い、生産性の向上による競争力の強化にも取り組んでまいります。

中国において菓子の製造、卸売を行っている不二家(杭州)食品有限公司につきましては、主力製品である「ポップキャンディ」が、テレビCMによる認知度アップに加え、手頃な価格の贈答品として好評を得て、大きく売上を伸ばすことができました。また、売上増に伴う生産面での人員不足にも、前期に導入した自動化設備により対応することができました。

この結果、菓子の売上高は、152億20百万円(対前年同期比100.3%)となりました。

飲料におきましては、主力の「ネクターピーチ350g缶」の売上が、主要販売ルートである自販機販売での消費増税による価格引上げの影響が続き、低調に推移いたしました。

この結果、飲料売上高は、11億46百万円(対前年同期比91.2%)となりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間における製菓事業全体の売上高は、163億66百万円(対前年同期比99.6%)となりました。

#### <その他>

通販・キャラクター事業部のライセンス事業への取り組みや、株式会社不二家システムセンターの受注請負、データ入力サービスなどの事務受託業務につきましては、ライセンス事業の売上が伸び悩み、その他事業としての売上高は3億86百万円(対前年同期比95.3%)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における資産、負債、純資産の状況は以下のとおりであります。

流動資産は275億10百万円で、主に売掛債権の減により前連結会計年度末に比べ35億44百万円減少いたしました。固定資産は311億65百万円で、主に有形固定資産の減により、前連結会計年度末に比べ22百万円の減少となりました。

この結果、総資産は586億75百万円で前連結会計年度末に比べ35億67百万円減少いたしました。

また、流動負債は198億4百万円で、主に仕入債務の減により前連結会計年度末に比べ32億34百万円減少いたしました。固定負債は89億10百万円で、主に長期借入金の返済により前連結会計年度末に比べ11億34百万円減少いたしました。

この結果、負債は合計287億15百万円で、前連結会計年度末に比べ43億69百万円減少いたしました。

純資産は299億60百万円で、主に利益剰余金の増により前連結会計年度末に比べ8億2百万円増加いたしました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成27年12月期の業績予想につきましては、平成27年2月9日に発表した予想の変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて当第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更し、割引率の決定方法を従業員の平均残存勤務期間に近似した年数に基づく割引率から退職給付の支払見込期間及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法へ変更いたしました。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当第1四半期連結会計期間の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。

この結果、当第1四半期連結会計期間の期首の退職給付に係る資産が163百万円増加し、退職給付に係る負債が383百万円減少し、利益剰余金が547百万円増加しております。なお、当第1四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成27年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	10,191	12,113
受取手形及び売掛金	13,709	9,203
商品及び製品	3,365	3,066
仕掛品	334	316
原材料及び貯蔵品	2,520	2,216
繰延税金資産	179	179
その他	1,040	772
貸倒引当金	△287	△356
流動資産合計	31,054	27,510
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	6,926	6,873
機械装置及び運搬具(純額)	8,208	8,051
土地	3,711	3,698
リース資産(純額)	1,448	1,515
その他(純額)	606	711
有形固定資産合計	20,900	20,851
無形固定資産		
のれん	445	431
その他	321	334
無形固定資産合計	766	765
投資その他の資産		
投資有価証券	5,953	5,943
繰延税金資産	158	144
敷金及び保証金	2,778	2,722
退職給付に係る資産	-	121
その他	771	719
貸倒引当金	△141	△103
投資その他の資産合計	9,520	9,548
固定資産合計	31,188	31,165
資産合計	62,242	58,675



(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成27年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,682	6,188
短期借入金	4,903	4,973
1年内償還予定の社債	494	494
リース債務	465	483
未払金	5,562	4,294
未払法人税等	436	242
賞与引当金	292	620
店舗閉鎖損失引当金	10	1
その他	3,192	2,506
流動負債合計	23,039	19,804
固定負債		
社債	1,311	1,169
長期借入金	4,166	3,760
リース債務	1,122	1,207
繰延税金負債	148	114
退職給付に係る負債	2,121	1,717
長期未払金	482	247
その他	690	693
固定負債合計	10,044	8,910
負債合計	33,084	28,715
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	18,280	18,280
資本剰余金	4,065	4,065
利益剰余金	5,281	5,857
自己株式	△15	△15
株主資本合計	27,612	28,187
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	113	146
繰延ヘッジ損益	35	20
為替換算調整勘定	596	613
退職給付に係る調整累計額	△359	△282
その他の包括利益累計額合計	386	498
少数株主持分	1,160	1,273
純資産合計	29,158	29,960
負債純資産合計	62,242	58,675

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成27年1月1日 至平成27年3月31日)
売上高	24,912	26,352
売上原価	13,104	14,088
売上総利益	11,808	12,263
販売費及び一般管理費	11,346	11,957
営業利益	461	305
営業外収益		
受取利息	7	8
受取配当金	73	14
持分法による投資利益	69	19
その他	104	63
営業外収益合計	254	105
営業外費用		
支払利息	27	30
社債発行費	25	-
その他	31	18
営業外費用合計	84	49
経常利益	631	362
特別利益		
固定資産売却益	-	2
特別利益合計	-	2
特別損失		
固定資産廃棄損	22	29
投資有価証券評価損	0	-
店舗閉鎖損失引当金繰入額	-	2
災害損失	12	-
特別損失合計	35	32
税金等調整前四半期純利益	595	333
法人税、住民税及び事業税	187	228
法人税等調整額	2	△30
法人税等合計	189	197
少数株主損益調整前四半期純利益	406	135
少数株主利益	66	107
四半期純利益	339	28

## 四半期連結包括利益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成27年1月1日 至平成27年3月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	406	135
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△129	26
為替換算調整勘定	△132	23
退職給付に係る調整額	-	77
持分法適用会社に対する持分相当額	△12	△8
その他の包括利益合計	△274	119
四半期包括利益	131	254
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	102	141
少数株主に係る四半期包括利益	28	113

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第1四半期連結累計期間(自平成26年1月1日至平成26年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	洋菓子事業	製菓事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	8,080	16,426	24,507	405	24,912	—	24,912
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	195	195	172	367	△367	—
計	8,080	16,622	24,702	577	25,280	△367	24,912
セグメント損益(△は損失)	186	944	1,131	46	1,177	△716	461

(注)1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、キャラクターグッズ等の通信販売、ライセンス事業、不動産事業及び事務受託業務等を含んでおります。

2 セグメント損益(△は損失)の調整額△716百万円には、固定資産減価償却費の調整額3百万円、のれんの償却費の調整額△16百万円、その他の調整額1百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△704百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費に係る費用であります。

3 セグメント損益(△は損失)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成27年1月1日至平成27年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	洋菓子事業	製菓事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	9,598	16,366	25,965	386	26,352	—	26,352
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	195	195	171	366	△366	—
計	9,598	16,562	26,161	557	26,719	△366	26,352
セグメント損益(△は損失)	△197	1,225	1,028	9	1,038	△732	305

(注)1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、キャラクターグッズ等の通信販売、ライセンス事業、不動産事業及び事務受託業務等を含んでおります。

2 セグメント損益(△は損失)の調整額△732百万円には、固定資産減価償却費の調整額2百万円、のれんの償却費の調整額△13百万円、その他の調整額0百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△722百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費に係る費用であります。

- 3 セグメント損益(△は損失)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。
2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。